

◆NPO JAVCOM(日本ビデオコミュニケーション協会) :

第149回セミナー開催 ~時代をよむ!明日はもっとおもしろい~ 【5Gで映像業界はどうなる!?】

今後1000倍以上のトラフィックが予想される無線通信網は、2020年に実用化を目指す「5G」(第5世代移動通信システム)によって、超高速大容量だけでなく同時多点接続・低遅延の通信インフラが実現します。

身のまわりのあらゆるモノがインターネットにつながるIoT時代となり生活全般に影響が及び、映像業界にも4K・8Kの同時配信など大変革が訪れようとしています。

このような背景から「時代をよむ!明日はもっとおもしろい」セミナーは多方面からの講師を招き、時代に取り残されないために皆様のビジネスでお役に立つセミナーを企画致しました。

講演1 基調講演 :

「アプリケーション開発から見た5G時代への期待と展開イメージ」

(株)インフォシティ 代表取締役 岩浪 剛太 氏

講演2 :「5G時代に向けたネットワークシステムの研究」

国立研究開発法人情報通信研究機構 ネットワークシステム研究所
ネットワーク基盤研究室長 原井 洋明 氏

講演3 :「次世代移動通信システム研究開発におけるドコモの取組み」

(株)NTTドコモ 先進技術研究所 5G推進室 室長 中村 武宏 氏

講演4 :「5G技術概要と可能性、KDDIの作戦は!」

KDDI(株) 技術統括本部 モバイル技術本部

シニアディレクター 松永 彰 氏

講演5 :「フジテレビとドコモの共同実証実験、5Gを活用したコンテンツ」

(株)フジテレビジョン 総合事業局

VR事業部 企画担当部長 富士川 祐輔 氏

主催: NPO法人 日本ビデオコミュニケーション協会

日時: 2017年10月13日(金) 13:00~17:25 (受付開始12:30~)

会場: 富士フィルム 西麻布ホール 東京都港区西麻布2-26-30 1F

会費: JAVCOM会員社・後援団体会員社=5,000円、

一般参加者=7,000円

【問い合わせ先】

NPO 法人 日本ビデオコミュニケーション協会 事務局

TEL: 03-3234-5994

URL: www.javcom.or.jp

◆NHK: ネット同時配信実験(試験的提供B)を開始

NHKは、新たな検証項目に取り組むため9月13日に「インターネット実施基準」の総務大臣の認可を得て、テレビ放送のインターネット同時配信の検証実験「試験的提供B」を実施すると発表した。3回目となる今回は、初めて地域放送番組の配信や、早戻し配信も行う。

1. 実施期間: 平成29年10月30日(月)~11月26日(日)

午前5時から翌午前1時までの1日20時間以内

2. 提供内容

- ・東京・神奈川・埼玉・千葉で放送している総合テレビ、Eテレビの番組を配信
- ・地域放送番組については、大阪局と静岡局の番組をそれぞれの地域

を限定して配信

- ・配信中に番組の冒頭にさかのぼる「早戻し配信」や、番組終了直後からの「見逃し配信」も実施

3. 参加者

10代~60代の約7600人。調査会社に、現在の日本の人口構成比に合わせた性別や年齢の参加者による調査を委託

4. 検証する項目

- 主にネットを利用する人の利用動向の把握
- 早朝・深夜や、スポーツイベント放送時の利用傾向の把握
(NHK杯フィギュア、大相撲九州場所を初めて配信)
- 地域放送番組の配信に関するシステム・運用の確認等

◆NHK: NHKラジオ 民放のプラットフォーム「radiko」で 実験的に配信

NHKと日本民間放送連盟は、共同で行うラジオキャンペーンとして、NHKラジオを、地域と期間を限定して民放ラジオのインターネット配信プラットフォーム radiko から実験的に配信する。

平成23年度から毎年実施している「ラジオキャンペーン」は、初年度は東京、翌年度以降、大阪、愛知、東北3県(岩手・宮城・福島)、北海道、福岡とキャンペーンの舞台を地方に展開。地元の民放ラジオ局と連携して進めてきた。

7回目となる今年は、ラジオに接触していない若者層にアプローチするため、キャンペーンのテーマを「ラジオのネット配信」とし、NHKラジオを radiko から実験的に配信する。実験の後、利用者の声を取りまとめ取り組みの成果を分析し、公表する予定。

配信の概要は次の通り。

- ・配信地域: 関東広域(1都6県)、宮城県、広島県、愛媛県、福岡県
- ・配信期間: 平成29年10月2日(月)正午~平成30年3月30日(金)
- ・配信対象: NHKラジオ第1、NHKラジオ第2、NHK FM
- ・配信方法: 同時配信のみ実施し、「エリアフリー」(地域を越えた全国配信)は実施しない。

なお、NHKラジオをインターネットで提供するサービス「らじる★らじる」は、今回のキャンペーンには関係なく継続する。

【問い合わせ先】

NHK広報局広報部 TEL: 03-5455-2458

◆フィルムライト: レスパスビジョン、Baselight 導入へ

レスパスビジョン(株)(本社: 東京都渋谷区、鈴木仁行代表取締役)は、FilmLightのBaselight TWOとFLUX Storeを導入することを発表した。11月の稼働に向けて着々と準備を進めている。

Baselight TWOは、FilmLightがNAB 2016で発表したVersion 5.0ソフトウェアを搭載した最新モデルで、3式のコンピューティングGPUを搭載し、4Kモニタリングが可能なグレーディング・システムで、世界中のハイエンド・ポストプロダクションで、映画やコマーシャルの制作に用いられている。今回、Baselight TWOとともに

FLUX Store も導入し、社内の他のシステムとの間を40 ギガビット・イーサネット で接続し、高速なデータフローも実現する。IBC 2017 で正式にリリースとなったVersion 5.0 を搭載した、日本で最初の Baselight となる。

同社システム部の久保江陽介氏は、「ハイエンドの世界では標準機とされているBaselight ですから、その潜在能力に期待しています。弊社には、それを引き出す技術と環境が揃っていると自負しています」と話す。レスパシビジョンには、すでに、Rio、Lustre、Filmmaster Nucoda、DaVinci Resolve、Mistika といったグレーディング・システムが揃っており、Baselight の導入が多くのクライアントからも期待されていた。

今回の導入において機種選択を主導した Flame アーティストでカラーリストの長島正弘氏は「Baselight は、他のグレーディング・システムに比べ、カラーコレクションの根幹部分が進化しています。V5.0 でオートマッチに計算式でカラースペース変換ができる新しいカラーマネジメントシステムが搭載され、5つの帯域でプライマリーがコントロールできるBase Grade が追加されました。また、撮影からポストプロへの連携ができるPrelight On-Set などにより総合的にワークフローを強化できることに優位性を感じ、導入を決めました。CM 業界でBaselight の名前が浸透することを信じています」という。

代表取締役の鈴木仁行氏も「FilmLight 本社のCEO に何度も足を運んでもらって、最初に検討を始めてから5年の月日が経ちました。私自身は前から最も優れたグレーディング・システムという認識があったのですが、やっと機が熟したという実感です」と付け加える。9月中旬にシステムを導入して、10月をトレーニング期間とし、同社の創立30周年の記念日となる11月2日のオープンを予定している。

【問い合わせ先】

フィルムライト(株) TEL : 03-6801-6280

◆フォトロン：東京ゲームショー2017に海外の eスポーツ イベント映像演出で多くの実績を持つグラフィック演出システム『Vizrt』を展



フォトロンは、9月21日(木)~22日(金)の2日間に開催された「東京ゲームショー2017 (TOKYO GAME SHOW 2017)」ビジネスデ이에、デジタルコンテンツの制作プロダクションである(株)IMAGICA イメージワークスと共同で出展した。

当展示会においてフォトロンは、海外のe スポーツイベント映像演出で多くの実績を持つ、リアルタイムグラフィック演出システム「Vizrt」を初出展し、ゲームに関わるすべての人に、最新のe スポーツ映像演出をご提案した。

Vizrt は、リアルタイムレンダリングエンジン「Viz Engine」と、シーン・デザインを制作するための「Viz Artist」の2つのソフトウェアを核とした、世界中の放送局で長年の実績を誇るリアルタイムグラフィック演出システム。バーチャルスタジオ・CG タイトル・ビデオウォール・スポーツCG 解説だけでなく、e スポーツイベントでも様々な演出を可能にする。

【問い合わせ先】

(株)フォトロン TEL : 03-3518-6276

◆三信電気：幅広い用途に対応したモバイルライブエンコーダ「LiveU Solo」発売

三信電気株式会社は、同社が国内正規代理店であるLiveU社(本社：イスラエル)の新製品、LiveU Solo (ライブユー ソロ)を発売する。



LiveU Solo は 接続されたカメラの映像・音声をリアルタイムにライブ配信サイトやSNSへ配信することが可能。最大の特徴は、2本のLTE/4Gなどの携帯回線とWi-Fi、LANを任意に組み合わせ広帯域

を確保するボンディング技術。これにより屋外屋内のいずれでも最大1080Pのフルハイビジョン画質の安定したライブ配信を実現する。ライブ動画は、YouTube、Facebook、Twitter (Periscope) など主要な配信サイトであれば「LiveU Solo 専用ポータルサイト」から簡単に配信できる他、RTMP ストリーミングプロトコルに対応しているサイトであればライブ配信可能。LiveU社のモバイルライブエンコーダは、優れたボンディング技術による移動撮影時の画質など基本性能の高さで放送業界では高く評価されており、すでに日本の放送業界ではトップシェアを誇っている。

◆三信電気：「鎌倉てらこや」建長寺合宿をYouTubeにライブ配信

NPO 法人鎌倉てらこや(本部神奈川県鎌倉市、理事長 上江洲慎)は8月6日(日)から9日(水)までの4日間、15年にわたり実施している鎌倉市の建長寺において小中学生100名が参加する合宿イベント「本気de 建長寺」(通称「建長寺合宿」)を開催、企画運営を行う大学生ボランティアを含めると総勢300人規模の大規模な夏のイベント

とほつに。

今年は、坐禅や法灯会(ほうとうえ)、研修料理といった お寺ならではの体験に加え、子どもたちが少人数の班に分かれ発表を行う「てらこや仮装大賞」を開催、暑い夏を体験した。しかし、「てらこや仮装大賞」は平日の夕方に開催されるため保護者が観覧するには時間が合わないという課題があった。そのため、今年度は「てらこや仮装大賞」の様子を YouTube でライブ配信するという試みが行われた。YouTube へのライブ配信は、プライバシー保護のため、「限定配信」モードを使用し不特定の視聴者が見ることがないように配慮した。また、有線LAN が確保できない屋外で配信するため、イスラエル LiveU 社の「LiveU Solo」を使用した。LiveU Solo は2本のLTE 携帯回線を束ねて通信帯域を確保することで高画質で安定した配信ができるインターネット中継専用の映像配信装置。約3 時間にわたり 1080x1920 のフルハイビジョンで安定した中継を行うことができた。

配信された子どもたちの映像は、会社帰りの保護者にはスマホで、自宅の家族にはPC やタブレットで、と多様な方法で閲覧され、身近なイベントにライブ中継が活用される時代の訪れを感じさせた。

【問い合わせ先】

三信電気株式会社

TEL : 03-5484-7270

◆日本映画テレビ技術協会 :MPTE 第3 回基礎技術セミナー "今こそ理解しよう！ VFX & HDR"を開催

日本テレビ映画協会は映像制作現場での実写制作、VFX 制作、アニメーション制作で主流となりつつあるワークフローなどの映像制作技術について、また、NHK の新たな取り組み、カラーマネジメントについての基礎から応用までの講演会を開く。

日時:2017年10月17日(火)14:00~18:00(受付開始13:30~)

会場:富士フィルム(株) 西麻布本社1階ホール

【第1部】 講演

HDR 関連の基礎知識、これからのHDR への取り組みについて

講師:馬渡貴志氏(東京パフォーミングデジタル代表取締役)

【第2部】 講演

NHK が取り組む新たな挑戦、HDR とカラーマネジメント

講師:井藤良幸氏(NHK 放送技術局 テクニカルスーパーバイザー)

【会費】

MPTE 個人会員(無料)/MPTE 法人会員(2,000 円)/学生(無料)

/非会員(4,000 円)

【問い合わせ先】

一般社団法人 日本映画テレビ技術協会

TEL : 03-5255-6201

◆ソニー:新開発 8K イメージセンサーを搭載した

8K 3 板式カメラシステム発売



ソニーは、新開発1.25 型 8K イメージセンサーを搭載した 8K 3 板式カメラシステムを発売する。イメージセンサーとプリズムの組み合わせにより、高解像度 8K (7680×4320) で最大120p の高速撮影や、広色域でハイダイナミックレンジ(HDR) に対応した映像撮影が可能になる。

1.25 型 8K 3 板式カメラシステム『UHC-8300』は 4K 映像やHD 映像の制作用途にも幅広く使えるよう、8K/4K/HD 信号の同時出力に対応しており、既存の 4K/HD 制作機器と連携したシステム構築も可能。

また、8K 映像から任意の 4K 映像を切り出して運用できる 4K カットアウト機能を搭載し、4K 映像表現の可能性や制作の用途がより広がる。また、B4 レンズアダプターと組み合わせれば、将来的には B4 マウントレンズが装着できるため、スポーツシーンなど高倍率のレンズが必要な制作現場においても、撮影に適した 4K レンズを幅広い選択肢から選べる。

日本では、4K および 8K の試験放送がすでに開始しており、2018 年中には実用放送が始まる予定。ソニーは、本商品の展開を通じて、8K 映像とともに、カットアウト機能などにより 8K 映像を活用した 4K 映像表現の可能性も広げ、市場での 4K および 8K の映像制作環境の普及を推し進めていく。なお、ソニーは本商品を日本放送協会(NHK)から製品仕様のアドバイスを受けて開発した。

1. 新開発1.25 型 8K CMOS イメージセンサーを 3 板搭載し、

高精細かつ広色域の映像表現を実現

新開発1.25 型のイメージセンサーを 3 板式とし、新開発のプリズムと組み合わせることで、高精細な 8K 解像度(7680×4320)による最大120p の高速撮影や、広色域(ITU-R BT.2020 対応)でのHDR 制作に対応する。これにより、被写界深度を深く、動体も鮮明に 8K 映像を撮影できる。例えば、奥行きのある競技場等では、画面中央の選手だけでなく、後方の選手達の動きも鮮明に映し出せる。3 板式では、プリズムを通じてRGB(赤緑青)の光を分光し、3 枚の1.25 型 8K イメージセンサーがRGB それぞれの光を捉えるため、より忠実な色再現性を実現する。

2. 4KやHD映像制作もでき、幅広い機器と連携したシステム構築が可能

8K/4K/HD 信号を同時に出力し、それぞれの映像信号に異なる色域や OETF (Opto-Electronic Transfer Function) を適応できるため、8K HDR 信号、4K HDR 信号、HD SDR 信号の同時出力も可能。8K 映像制作だけでなく、4K やHD の映像制作用途にも幅広く使える。さらに、8K 映像のオーバーサンプリング効果により、4K/HD 映像を必要な画素数よりも豊富な情報量を凝縮して出力できるため、解像力の高い映像表現が可能。

4K やHD のカメラシステムと連携したシステム構築も可能で、リモー

トコントロールパネル (RCP) やビューファインダーなど使い慣れた周辺機器を、本商品に共通して使用できる。

3. 4K 映像の運用の幅を広げる、8K から 4K への

映像切り出し(カットアウト)機能

カメラシステムに搭載したプロセッサの画像処理により、8K 映像から任意の 4K 映像を切り出して運用できるカットアウト機能に対応します。8K の画角で撮影した広範囲の映像から、特定の選手などが写った映像を、4K 画質で切り出すことができます。

4. B4 レンズアダプターと組み合わせれば、

将来的に 4K 映像制作用 B4 マウントレンズも装着可能

B4 レンズアダプターと組み合わせれば、1.25 型 8K 用レンズのみならず、将来的に 2/3 型 B4 マウント 4K 用レンズを用いた撮影が可能。スポーツライブ制作などで、4K の高倍率レンズを活用し、広いスタジアムの一角から鮮明に選手の姿を捉えることが可能となる。なお、4K カメラシステム『HDC-4300』などで好評なフォーカスアシスト機能も本商品に搭載し、フォーカス操作をサポートする。

5. 映像伝送を IP 化する、映像伝送技術ネットワーク・メディア・

インターフェース (自社開発) に対応

SDI 伝送のほか、ネットワーク経由での映像伝送を可能とする 40Gb/s IP インターフェース技術ネットワーク・メディア・インターフェース (自社開発) に対応し、8K/59.94p 信号をケーブル 1 本で制作機器に信号伝送することも可能。

◆ソニー：高い動画 AF 性能を 273 点像面位相差検出 AF

センサーの搭載により実現するカムコーダー 3 機種を発表

高い動画 AF 性能を 273 点像面位相差検出 AF センサーの高密度配置によって実現し、HLG (Hybrid Log-Gamma) 方式の 4K HDR 記録に対応する、1.0 型積層型 CMOS イメージセンサー Exmor RS® 搭載のカムコーダー 3 機種を欧州で発売する。多様な使用環境に対応する 3 機種の導入により、4K カムコーダーのラインアップを、プロからハイアマチュアまで、顧客の幅広いニーズに応えるよう拡充する。



左から、XDCAM『PXW-Z90』、NXCAM『HXR-NX80』、ハンディカム®『FDR-AX700』

◆ソニー：IBC2017 にて高効率な映像制作ワークフローを提案

・さらに進化した HDR 映像制作ワークフロー “SR Live for HDR”

ソニーは、2016 年秋以降、スポーツライブ中継などの映像制作領域で、高画質な映像を効率的に制作するソリューション “SR Live for HDR” を推進している。制作用フォーマットに < 4KHDR/S-Log3/BT.2020 > を用いることで、シンプルなシステム構成でカメラ性能を最大限に生かし、4K HDR/HD HDR/HD SDR の映像を同時制作し、PQ (Perceptual Quantization)、HLG など複数の EOTF

(Electro-Optical Transfer Function) に対応したライブ制作を実現している。

今回の IBC では、SR Live for HDR のワークフローにおいて、撮影段階から HLG での制作を可能とする HLG_Live モードを追加する。HLG のフォーマットでの制作・送出手続きを検討している顧客に向けて、HDR/SDR 映像の同時ライブ制作や使い慣れた HD SDR 環境でのアイリス調整・色調整といった SR Live for HDR のワークフローのメリットを踏襲しながら新たな機能として提供する。S-Log3 制作と同等レベルの画質の実現と、フォーマットの変換プロセスの最小化という、効率的なワークフローを実現する。

・ネットワーク接続でシステム構築・運用を効率化する

IP ベースのライブソリューション強化

映像信号など (音声、メタデータ、同期信号、制御) をリアルタイムに IP 伝送するライブソリューションをさらに強化する。IP 伝送技術ネットワーク・メディア・インターフェースに対応した幅広い制作機器を展開するとともに、業界標準化規格への対応を積極的に推進する。本年の IBC では、遠隔地の機器と連携して映像制作するリモートインテグレーション (REMI) のデモンストレーションを実施。オランダのソニーブースにある撮影機材と、ロンドンのデータセンターに設置したスイッチャー、サーバーなど制作システムを IP インフラで繋ぎ、ライブ制作を行った。IP による柔軟な制作環境やリソースの効率化をブースで体験できる。

・クラウドを活用した効率的なシステムや先進の映像運用、

映像アーカイブソリューションの提案

2017 年 6 月より米国で導入を開始したクラウドサービス “XDCAM air” は、いよいよ 2018 年初頭に欧州でもサービスを開始する。ゴールライン判定やマルチカメラ映像を収録しコーチングなどに使用できる “Hawk-EYE” など、先進のメディアオペレーションの展示も行った。また、映像アーカイブソリューションとしては、光ディスクの技術と信頼性を継承したオプティカルディスク・アーカイブ第 2 世代を展示し、アクティブアーカイブや災害時を想定したバックアップアーカイブなど、様々な用途で提案する。

◆ソニー：新商品 デジタルワイヤレスマイクロホンシステム

DWX シリーズ 4 機種を発表

ソニーはデジタルワイヤレスマイクロホンシステム DWX シリーズを第 3 世代として進化させるべく、デジタルワイヤレストランスミッター (仕込み用ボディパックトランスミッター)、デジタルワイヤレスレシーバー (Dante® 対応)、バッテリーチャージャー、エレクトレットコンデンサーマイクロホンの 4 機種を発売した。

第 3 世代の DWX シリーズでは、より高音質かつ低遅延で安定した無線伝送と、オーディオの IP 化をシステムで実現します。『DWT-B03R』は遅延量を 1.2msec にまで縮めることで、デジタルミキサーを含めたトータルの遅延量削減に寄与、また『DWR-R03D』は新開発の高ダイナミックレンジの RF 回路および 4 アンテナダイバーシティ受信システムにより、RF 伝送の安定性を更に向上させている。そしてオーディオの IP 化には、『DWR-R03D』がマルチチャンネルオーディオの IP 伝送方式における主要規格「Dante®」に対応する。

仕込み用ボディパックトランスミッター。

- ・小型、軽量かつ堅牢なマグネシウムボディにて、従来モデル『DWT-B01N』から体積比 27% 小型化。
- ・高音質と低遅延を両立。Codec mode2 において 1.2msec の低遅延を実現。
- ・汗や雨、水しぶきに強い防滴仕様。筐体内部にパッキンを使用し、防滴仕様のコネクタを採用。
- ・ソニー製Li-ion 充電電池『NP-BX1』を採用し、長時間運用が可能。本体ごと充電可能な充電器『BC-DWX1』も同時発売。
- ・148MHz ワイドバンドおよび多チャンネル同時運用を実現し、幅広い周波数に対応。全国移動時の機材削減、メンテナンス、負荷低減に寄与。また375kHz 間隔のチャンネルプランにより、1TV バンドあたり最大16 チャンネル同時運用可能。



■デジタルワイヤレスレシーバー『DWR-R03D』



広帯域をカバーし、ネットワークオーディオにも対応した、1U サイズ 2 チャンネル受信のラックマウントレシーバー。

- ・マルチチャンネルオーディオのIP 伝送方式主要規格Dante® に対応。マルチチャンネルオーディオのIP 伝送はもちろんのこと、リダクションシーやヘッドホンモニタリングにも対応。
- ・より安定した無線伝送(RF伝送)を実現。高ダイナミックレンジのRF 回路および4 アンテナダイバーシティ受信システムにより、安定したRF 伝送を実現。
- ・Cross Remote による自動チャンネル切り替え機能。スキャン結果をもとに、ドロップアウトが発生した送受信機の周波数を自動的に空きチャンネルに変更可能。
- ・受信機間のヘッドホンモニタリング機能。Dante® ネットワークを活用し、ヘッドホンを差し替えることなく別の受信機の音声をモニタリングすることが可能。
- ・244MHz ワイドバンドおよび多チャンネル同時運用を実現。

■バッテリーチャージャー『BC-DWX1』

- 2 台同時に充電可能な『DWT-B03R』、『NB-BX1』専用充電器。
- ・送信機本体 (DWT-B03R) ごと、もしくは充電電池『NP-BX1』単体でも充電可能。
- ・AC アダプター (別売) と LAN ケーブルで電源供給するPoE の 2 通りの電源に対応。
- ・PC ソフトウェア対応により、ネットワーク接続することで、Wireless Studio から充電状態を監視、制御が可能。

■エレクトレットコンデンサーマイクロホン『ECM-77LM』

- 『ECM-77BC』をベースに、『DWT-B03R』に接続可能な小型3-pin コネクタを採用したラベリアマイクロホン。
- ・小型・軽量の全指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
- ・広周波数帯域、高感度、低ノイズを実現

・デジタル機器からの電波干渉を低減

◆ソニー：2/3 型イメージセンサー搭載 4K 対応シヨルダールカムコーダー『PXW-Z450』のバージョンアップを年内予定

『PXW-Z450』に新たな機能を追加搭載した無償バージョンアップソフトウェアを2017年12月中に公開予定です。HLG で撮影し、HLG で制作・視聴するインスタントHDR ワークフローへの対応に加え、S-Log3 での高品質な撮影・記録や、BT.2020 の色域に対応する。さらに 4K HDR と HD SDR を一枚のSxS カードに収録する機能も追加され、報道のみならず、HDR を幅広い映像制作用途で使用できるカムコーダーとして機能を拡張する。

◆ソニー：業務用フルHDピクチャーモニターPVM-A、LMD-A シリーズ5機種に多様な機能を追加したバージョンアップソフトウェア(無償)を提供開始

ソニーは、フルHD の業務用ピクチャーモニターPVM-A・LMD-A シリーズの5 機種および 4K HDR に対応した55 型有機EL モニター『PVM-X550』において、多様な機能を追加したバージョンアップソフトウェアをリリースした。

有機EL モニターPVM-A シリーズおよび液晶モニターLMD-A シリーズ5 機種のソフトウェアVer.2.0 では、ITU-R BT.2020 の色域に対応し、4K 制作で必要となる広色域の色再現をフルHD ピクチャーモニターで実現する。入力系統では、HD モニターながら 4K 信号の一部をそのまま受けられる2SI (2-Sample Interleave) ペイロードID に対応。新機能「フォルスカラー」は、映像の輝度を信号レベルで監視することで、撮影時の白飛びや黒潰れを防ぎ、必要な色を残してグレーディングに備えることができる。1 台のモニターでフレームレートや解像度の異なる2 系統の映像信号を左右2 画面に分割表示する「シンクフリーサイドバイサイド」機能は、複数のカメラからの映像を受け取ることができるほか、フォルスカラーと合わせて使うことで、1 台のモニター上で通常映像とフォルスカラーを比較しながら使用することも可能。また、複数のエリアマーカーを同時表示し、自由な設定が可能な「フレキシブルエリアマーカー」を追加。インサート映像やキャプション制作など多彩な構図を求められる現場の声に応える。

4K HDR に対応した55 型有機EL モニター『PVM-X550』では、新たに高輝度モードを搭載したバージョンアップソフトウェアを来春リリース予定です。ダイナミックレンジが広がり、より高輝度な領域も表示します。併せてそのほかの機能アップも予定している。

【問い合わせ先】

ソニー株式会社 広報・CSR 部 TEL. 03-6748-2200

◆キヤノン：4K/60P の映像が撮影可能な小型・軽量のビデオカメラ“XF405/XF400/iVIX GX10”など6機種を発売

キヤノンは、4K/60P の映像が撮影可能な小型・軽量の“XF405/XF400/iVIX GX10” および、フルHD ビデオカメラ“XA15/



XA11/iVIX HF G21”の合計 6 機種を 9 月 22 日より順次発売。
 “XF405/XF400”は、ニュースやドキュメンタリーなどの取材や、結婚式のような重要なイベントの記録撮影など、幅広い用途での使用を想定した業務用 4K ビデオカメラ。“iVIX GX10”は、“XF405/XF400”と同等の高画質で、映像撮影を趣味とするハイアマチュアユーザー向けのビデオカメラ。

・4K/60P の映像を光学 15 倍ズームで撮影可能な小型・軽量モデル
 新開発の 4K 対応光学 15 倍ズームレンズや 1.0 型 CMOS センサー、映像処理プラットフォーム「デュアル DIGIC DV 6」を搭載することで、広角 25.5mm から望遠 382.5mm 相当の全ズーム域で高画質な 4K/60P の映像を撮影できる。また、ビデオカメラ本体の大きさは約 135mm(幅)×97mm(高さ)×214mm(奥行き)、質量は“XF405”で約 1,150g と小型・軽量仕様により、報道やイベントなどの撮影時にも機動力を生かした撮影が可能。

・動画撮影に適した「デュアルピクセル CMOS AF」により

滑らかな AF 操作が可能

厳しい合焦精度が求められる 4K 撮影時でも、動画撮影に適した滑らかな AF 動作と高い追従性を有する「デュアルピクセル CMOS AF」により、タッチパネルを用いた直感的な操作で、素早く高精度にピント合わせができる。

XF405、XF400 はオープン価格、iVIX GX10 は希望小売価格 24 万 8000 円(税別)でいずれも 11 月上旬発売予定。

◆キャノン:業務24型 4K/HDR ディスプレイ“DP-V2411”を発売。安定した高輝度表示と 12G-SDI 端子搭載で撮影時の映像確認に最適

キャノンは、業務用ディスプレイの新製品として、安定した高輝度表示の実現や 12G-SDI 端子の搭載により、4K/HDR 撮影現場での映像確認に適した 24 型 4K/HDR ディスプレイ “DP-V2411” を 2017 年 12 月上旬より発売する。新製品は、独自開発のディスプレイ用映像エンジンや、独自設計の直下型 LED バックライトシステム、IPS 液晶パネルを採用することで、忠実な色再現・高解像度・高コントラスト・高輝度を実現し、撮影した 4K/HDR 映像を正確に確認することができる。



・安定した高輝度表示を実現

600cd/m²(最大輝度・全白輝度)の高輝度表示が可能なおよび、映像信号の平均輝度が上昇した際に表示画面の輝度が低下するといった、映像内容による輝度の変動を抑制し、安定した高輝度性能を

実現している。これにより、撮影現場やスタジオなどでより正しい輝度や色で 4K/HDR 映像を確認することが可能。

・4K/60P の映像をケーブル一本で送受信できる 12G-SDI 端子を搭載
 12G-SDI 端子(IN/OUT 各 4 系統)の搭載により、3G-SDI 端子搭載の 4K ディスプレイでは SDI ケーブルを 4 本必要としていた 4K/60P 映像の送受信が、12G-SDI 対応ケーブル 1 本で可能になる。ケーブルの本数を抑制できるため、設置の手間やコスト、質量の削減に加え、省スペース化にも貢献する。

・HDR 映像の確認に便利な撮影アシスト機能を搭載

現行機種「DP-V3010/2410/2420/1710」と同様に、放送回の HDR 方式である「Hybrid Log-Gamma」や、映画制作や配信向けの HDR 方式である「PQ」、キャノン独自の Log ガンマ「Canon Log/Log 2/Log 3」など、各種 EOTF に対応している。また、入力信号の輝度レベルを表示する波形モニターや、入力画像を輝度別に異なる色で表示するフォルスカラー機能など、各種 HDR 方式に対応した便利な撮影アシスト機能を備えており、HDR 映像を効率的に確認できる。

【問い合わせ先】

キャノン株式会社 TEL. 03-5732-8265

◆富士フイルム:フジノン 放送用 4Kレンズ「UA24x7.8」発表

富士フイルム株式会社は、世界最小(全長約220.5mm)・最軽量(質量約1.98Kg)を実現した 4K 対応の放送用レンズ「FUJINON UA24x7.8BERD」(以下「UA24x7.8」)を 2018 年 1 月より発売する。「UA24x7.8」は、コンパクト



ボディながら、広角 7.8mm から 187mm の焦点距離をカバーする 24 倍高倍率ズームを備え、高い機動力と運用性を発揮するポータブルズームレンズ。スポーツ中継や報道取材などにおいて、臨場感のある高精細な映像を撮影できる。

同社は、本製品を加えた全 8 機種の充実した 4K レンズラインアップで、4K 映像制作現場の多様なニーズに応えていく。なお、9 月にアムステルダムにて開催された「IBC 2017」に「UA24x7.8」を出展した。

・製品特長

・4K 対応の放送用レンズとして世界最小・最軽量を実現し、高い機動力を発揮。独自の光学技術や精密加工・組立技術を活かし、レンズ構成を最適化することにより、全長約 220.5mm・質量約 1.98Kg の世界最小・最軽量を実現。

・「4K カムコーダー」との組み合わせで、カメラを肩に担ぎながら撮影する「肩担ぎスタイル」の負担を軽減。スポーツ中継や各種番組制作のロケなどで、快適な撮影を可能にする。

・24 倍の高倍率ズームを備え、高い運用性を実現。小型・軽量ボディながら、広角 7.8mm から 187mm の焦点距離をカバーする 24 倍ズームを実現。1 本で多彩なシーンを撮影できるなど、高い運用性を発揮する。さらに、コンパクトボディと高倍率ズームを両立したこ

とにより、スポーツ中継や報道取材において、被写体を強調した臨場感のある映像を撮影できる。

- ・ズーム全域で 4K 対応の高い光学性能を発揮。独自の多層コーティング処理「HT-EBC(High Transmittance Electron Beam Coating)」により、光の透過率や色再現性を高める。また、最新の光学設計技術を活用することで、画面周辺の解像力低下と各種収差を抑制しているため、より「HDR(ハイダイナミックレンジ)」を活かした撮影が可能。夕暮れ時のスタジアムなど、明暗差の激しい撮影シーンでも、豊かな階調を再現する。
- ・9枚絞り羽根採用による自然なボケ味を実現。9枚絞り羽根の採用により、円形に近い絞り形状を実現。自然なボケ味を生かした撮影が可能。
- ・16bit エンコーダーを標準装備。ズームやフォーカスの位置情報などのレンズデータを高分解能で出力できる 16bit エンコーダーを標準装備。CG 映像とライブ映像を合成するバーチャルスタジオなど等、さまざまなシステムと連携できる。

【問い合わせ先】

富士フィルム株式会社 TEL.048-668-2143

◆パナソニック：ベルリンにて開催した「国際コンシューマ・エレクトロニクス展 (IFA 2017)」に出展

パナソニック(株)は、2017年9月1日から6日まで、独ベルリンにて開催した「国際コンシューマ・エレクトロニクス展 (IFA 2017)」に出展した。パナソニックブースでは、「A Better Life, A Better World」をテーマに、「憧れの暮らし」を実現するAV機器から白物家電、美容機器まで幅広い商品を紹介した。また、展示会場の様子を映像でお届けする「Panasonic LIVE@IFA 2017」も実施された。

～Better Living Tomorrow～

IoT や AI、ロボティクス技術により、心が豊かになる暮らしを表現。宅内だけでなく社会ともつながることで日々の暮らしをより便利にする IoT 技術、暮らしに寄り添うことで大切な家族や友人との時間をより一層楽しく充実したものにする AI やロボティクス技術を紹介した。

● Collaborative Kitchen

AI キッチンアドバイザーがシーンにあわせたレシピを提案。調理研究機関やシェフとの連携による調理のアドバイスと、レシピにあわせた調理機器の協調動作により、キッチンの新たな可能性が広がる。

● Educational Partner

教育機関との連携で数多くのサービスを提供するソーシャルロボットが、対話や遊びを通じて子供の自発的な成長を引き出す。搭載されたカメラで子供の自然な表情を捉え、成長を記録。ロボット自身も、日々賢くなっていく。

● Movable Fridge + Sake Cooler

酒造データベースと連携した酒クーラーが、酒自体の情報だけでなく、酒にあう料理やつまみまで提案。自律走行型冷蔵庫は、声かけや状況に応じて料理を特定の場所まで運んでくれる。



©2017 Messe Berlin

● Sustainable Maintainer

衣類メーカーとの連携で服の素材を識別し、汚れ具合に応じた最適な洗い方を実行。洗濯乾燥だけでなく、畳みや収納まで自動で行う。

～Smart Life～

スマートをキーワードに、ベルリンのスマートシティプロジェクト「Future Living Berlin」、蓄電池や燃料電池などのエネルギー商品、ホームセキュリティサービスなど、幅広い取り組みを紹介した。

～TV + Home AV～

Hollywood to your home のテーマの下、TV、BD プレーヤー、LUMIX の 4K 商品群を紹介した。

● 4K テレビ

有機EL テレビEZ1000 シリーズの77 インチを新商品として初お披露目するほか、有機EL テレビ、液晶テレビの 4K テレビフルラインアップを展示した。ブースでは、デザインや画質比較を行うコーナーを設けるほか、透明ディスプレイも参考出展した。

● ワイヤレススピーカーシステム SC-GA10

Google の音声認識と AI を組み合わせたエージェントサービス「Google アシスタント」に対応し、話しかけるだけの簡単操作で、多様な音楽が高音質で楽しめるスマートスピーカーを出展します。音声操作だけでなく、独自技術による高音質再生を実現しており、スタイリッシュなデザインとともに紹介した。

● ヘッドホン RP-HTX80

ファッショナブルな4色のカラーバリエーションを取り揃えたRetro Design に、40mm 大型ドライバーと最新の音響テクノロジーを融合させワイヤレスヘッドフォンを出展した。

～Digital Imaging～

● ミラーレス一眼カメラ 4K HDR 対応LUMIX GH5



©2017 Messe Berlin

ファームアップによりLUMIX GH5 に新たに追加されるHLG(Hybrid Log Gamma)方式で撮影された 4K HDR 映像を紹介。今までは表現できなかったような明るい空、光の反射など、より自然に近い階調、精細感のある映像を撮影して当社 4K HDR 対応テレビで見るなど、新たな映像制作の楽しみを提案した。また、GH5 の各種機能を体験できるコーナーも設けた。

●6K フォト体験

決定的な瞬間をより美しく確実に撮影できる6K フォトの体験コーナーを設置した。撮影した写真はプリントアウトして持ち帰りができる。

●フォトギャラリー

プロカメラマンだけでなく、一般のお客様がLUMIX で撮影し、SNS サービスを通じて発信された写真を展示した。

～Personal Care～

ビューティー、メンズグルーミング、オーラルの商品群を、体験デモを通じて訴求した。

●ビューティー

ビューティーサロンを模した空間で、新商品のスチーマーEH-XS01を中心に、温冷イオンエフェクターEH-XT20、クレンジングブラシEH-XC10を加えたスキンケア商品群を紹介した。

●メンズグルーミング

モダンな理容室の雰囲気の中で、プロ理容師による上質な髭のシェービングとスタイリングを体験していただいた。シェーバーES-LV9N、トリマーER-GD60、ER-SB60、ヘアカッターER-SC60のラインアップを展示した。

●オーラル

音波振動歯ブラシEW-DL83と、強力な水流で洗い流すジェットウォッシャーEW1611のタッチ&トライを動画とともに行った。

～Small Kitchen Appliances～

フードブロガーや栄養士を招いて実施するワークショップなど体験型の展示を通じてキッチン家電群（電子レンジ、ホームベーカリー、スロージューサー、ブレンダー）を紹介した。

【商品展示】

電子レンジNN-CS894 / NN-GD38、ホームベーカリーSD-ZX2522、ブレンダーMX-S401、スロージューサーMJ-L600 / MJ-L500を展示。ジューサーに設置したスロージューサーで、出来立てのジュースをお楽しみいただいた。加えて、冷蔵庫も含めたライン



アップを、生活空間に溶け込む形で展示した。

～Built-in Kitchen Appliances～

【クッキングデモ】

ドイツ人シェフによる調理デモンストレーションを実施。鍋の温度を正確にコントロールできるポイントを中心に、家庭で簡単にプロの味が再現できる調理機能を紹介した。

【商品展示】

●IHクッキングヒーター KY-T937VL / KY-B937SL / KY-B927GF / KY-B627GB

鍋底から出る赤外線を検知し、正確な温度制御を行う独自の光火力センサー「Geniusセンサー」にフォーカス。調理に最適な温度制御を可能とした当社ならではの技術を、スケルトンモデルや映像を通じて紹介します。また、T937VLは、さまざまな鍋や、グリルパンの形状に対応できる「Advanced flexコイル」を搭載。わかりやすく、使いやすいTFT液晶操作画面とあわせて訴求、展示した。

●3 in 1 オープン HL-SX485B / HL-SX485S

スチーム・コンベクション・電子レンジ3つの機能をメニューごとに適した組み合わせで調理ができる3in1コンパクトオープンを展示。スチームでよりおいしくヘルシーに、インバーター制御の電子レンジで省エネかつ素早い調理が可能となります。その技術や構造をスケルトンモデルや映像で紹介した。

～Technics～

Technicsで音楽を楽しむ3パターンの生活空間での音デモとラインアップを展示します。オールインワンタイプの新商品「OTTAVA(TM) fJSC-C70」による新しい音楽スタイルを提案するとともに、ダイレクトドライブ方式ターンテーブルの開発試作機を参考出展。「SP-10R」として2018年夏の商品化を目指しており、ダイレクトドライブ・モーターの進化や過去のSP-10シリーズとともに紹介した。

●プレミアムクラス「OTTAVA(TM) fJSC-C70

CDからネットワークオーディオまで、多彩な音楽ソースに対応したオールインワンミュージックシステム。Technicsの新技术やノウハウを凝縮し、スケール感豊かな力強いサウンドを一体型コンパクトボディで実現したことに加え、質感の高いデザインと快適に使える操作性を有し、音楽のある暮らしを豊かに彩る生活空間とともに提案した

【問い合わせ先】

パナソニック株式会社 TEL : 06-6908-0447

◆株式会社フォトロン：国産・自社開発テロップシステム「TFX-Artist Ver.2.0」新バージョン発表会を開催。現場の生の声をご紹介します「ユーザー特別講演」も同時開催

放送 / 映像関連機器の開発・製造・販売・輸出入を手掛ける、株式会社フォトロン(本社：東京都千代田区、代表取締役社長 布施信夫)は、国産・自社開発テロップシステムの新バージョン「TFX-Artist Ver.2.0(2017年9月末発売予定)」の発表会を、2017年8月29日(火)、TKPガーデンシティ PREMIUM 神保町(東京都千代田区)にて開催した。

リリース以来、初のメジャーバージョンアップとなる「TFX-Artist Ver.2.0」の新機能を紹介した。

「TFX-Artist」導入企業によるユーザー特別講演や、ノンリニア連携プラグインのお披露目し、110名を上回る来場者に湧いた。

・内容：TFX-Artist Ver.2.0新機能の紹介(パフォーマンス向上) / 実機デモ

・ユーザー特別講演：[テーマ]「Deko」から「TFX-Artist」へ。

TFX-Artistへの移行や運用について、現場の生の声を紹介した。

導入企業2社によるユーザー講演 登壇者

・ヴェルト株式会社 執行役員 生田目 隼氏

・ヌーベルアージュ株式会社 チーフエディター 武者 宏氏
ヴェルト株式会社 様、ヌーベルアージュ株式会社 ・TFX-Plugin for Adobe Premiere(β版) 紹介。会場アンケートでは、非常に高い評価を得た。

【テロップ制作システム「TFX-Artist」とは】

「TFX-Artist」は、2016年8月に発売した、操作性とスピードを追求した国産・自社開発のテロップシステム。動画・静止画に対応した自由度の高いテクスチャ機能や、幅広い表現を可能にするVFXプラグイン / グラデーションのほか、他システムとの連携を実現するファイル入出力機能を搭載している。

▼「TFX-Artist」製品情報

<https://www.photron-digix.jp/telop/>



CEATEC JAPAN 2017

主催者特別企画「IoTタウン2017」、出展概要を発表「Society 5.0のフロントランナー」による業界を超えた「共創」を発信

一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)のCEATEC JAPAN主催3団体は、本年10月3日(火)から10月6日(金)の会期で開催される「CEATEC JAPAN 2017」(会場：千葉市・幕張メッセ)において、主催者特別企画「IoTタウン2017」(国際展示場4ホール)を展開する。

IoTタウン2017は各出展者による展示とコンファレンス、さらにはオープンステージでのプレゼンテーション、Society 5.0をテーマにした冊子の頒布を組み合わせた、複合的な特別企画として展開する。

●展示概要(出展内容)

IoTタウン2017の展示は15ブースからなる未来の街をイメージした集合体です。「社会課題を解決してSociety 5.0を築く」をテーマに、様々な産業のフロントランナーが集結しています。新たなビジネスモデルにつながるアイデアやパートナーとの共創の発信にご期待ください。

▼株式会社三井住友フィナンシャルグループ

SMFGのデジタルイノベーション：SMFG各社のITを活用した新事業を、実証実験中のもも含め紹介する。

▼株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

新しい金融のカタチ：ブロックチェーンやIoTを用いた新しいデジタル通貨、また先端技術を活用したお客さま対応技術やAIを活用したフィンテックサービスを展示する。

▼バンダイナムコグループ

未来と遊ぼう！with Future：「テクノロジー×エンターテインメント」の可能性を広げ、より楽しいコミュニケーション創出の提案をバンダイナムコグループ共同で紹介する。

▼株式会社タカラトミー

AIロボットとの生活：SF映画でしか見る事のなかった世界を現実にしてくれる、心を持つAIロボットCOZMO(コズモ)を展示します。

▼株式会社ジェイティービー

想像を超える価値提供：デジタル×ヒューマンタッチの融合によるJTBならではの新たな旅のStyleを提案する。

▼アンリツ株式会社

国内外のIoTの進展に貢献：IoTで通信品質を台無ししていませんか？簡単操作でIoTを支えるテスターを中心に紹介する。

▼豆蔵ホールディングスグループ

ITで社会の変革を実現：AI、IoT、RPAやロボットなどの技術でビジネスや生活を革新するソリューションを展示。

▼Origin Wireless Japan 株式会社

センサーレスIoT：ウェアラブルデバイスやセンサーを必要とせず、WiFi電波の飛び方の解析により空間の状態を検知する、Origin/Botシステムの新しい空間検知体験ができます。

▼JEITA スマートホーム部会(株式会社LIXIL、積水ハウス株式会社、大和ハウス工業株式会社 他)

IoT でつながるスマートホーム～暮らしの未来～：スマートホームとは子育て世代、高齢者、単身者など、様々なライフスタイル／ニーズにあったサービスをIoTにより実現する新しい暮らし。会場では、IoTを活用したスマートホーム関連製品の一部を紹介。

▼マゼランシステムズジャパン株式会社&株式会社自律制御システム研究所

高精度 GNSS 受信機×ドローン：様々な自動運転用途に必須である cm 級精度を持つ衛星測位システム。ドローンに適用する事で実現可能な多くの世界を紹介。

▼ウエストユニティス株式会社

IoT が現場を変える！：工場・工事現場・倉庫といった実際の現場での作業効率向上を実現しているウェアラブルの今を見ることが出来る。

▼国立情報学研究所 / 北海道大学 / 筑波技術大学 / 長岡科学技術大学 / JIP テクノサイエンス / 東京大学

IoT でインフラを守る：インフラ予防保全のための大規模センシングデータに基づく路面・橋梁スクリーニングや膨大な維持管理データ活用のための統合的データ管理基盤に関する技術を紹介。

▼札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム

札幌発・AIへの取組：産学官連携による「札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム」の部会「Sapporo AI Lab」と、参画企業のIoT・AIに関する製品・サービス・プロジェクト等について展示。

▼島根県・しまねソフト研究開発センター

島根発の製品で世界へ：しまねソフト研究開発センターの役割と、島根県内の企業様と共同で進めているIT・IoTを活用した新製品やサービスの創出に向けた取り組みを紹介。

▼宮崎県

宮崎県発！スマート技術の開発：世界最先端の残留農薬分析技術（50分で500成分の一斉分析技術を開発）

海況情報提供システム「海の天気図」（操業効率化のための海況情報提供技術を開発）

次世代型施設園芸環境制御システム（ICTを活用した栽培環境制御技術を開発）

●コンファレンス概要

10月5日（木）15:30-17:30（コンベンションホールB）

IoTタウン特別コンファレンス：スマートホームで暮らしが変わる～ハウス/住設機器/家電/サービスのつながりにより描く新たな“住まい価値”の創造～

- ・国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学 教授 丹 康雄 氏
- ・シャープ（株）IoT通信事業本部 IoTクラウド事業部 事業部長 白石 奈緒樹 氏
- ・（株）LIXIL Technology Research 本部 システム技術研究所 所長 三原 寛司 氏
- ・楽天（株）執行役員 楽天技術研究所 代表 森 正弥 氏
- ・積水ハウス（株）執行役員 技術業務部長 兼 設計システム室長 雨宮 豊 氏
- セコム（株）顧問 小松崎 常夫 氏

10月6日（金）13:45-15:15（コンベンションホールA）

IoTタウン特別コンファレンス：「IoTで加速する社会変革」IoT×観光が地域を変える～地域の課題解決につながるツーリズムの力～

・（株）ジェイティービー グループ本社 執行役員 法人事業部長 古野 浩樹 氏

京都から始まる日本のスマートシティ～京都府とシスコの取り組み～

- ・京都府 商工労働観光部 文化学術研究都市推進課 課長 藤岡 栄 氏
- ・シスコシステムズ（同）専務執行役員 戦略ソリューション
- ・事業開発東京 2020 オリンピック・パラリンピック 推進本部担当 鈴木 和洋 氏

10月6日（金）15:30-17:30（コンベンションホールA）

IoTタウン 特別コンファレンス：

IoTにより変革する金融業界の未来～中央銀行・メガバンクが描く金融ビジネスの未来とIT・エレクトロニクス産業への期待とは～

FinTechが描く未来

・日本銀行 決済機構局 FinTechセンター長 河合 祐子 氏

MUFGのデジタルトランスフォーメーション

・（株）三菱UFJフィナンシャル・グループ デジタル企画部長 相原 寛史 氏

SMFGのデジタルライゼーションへの取組

・（株）三井住友フィナンシャルグループ ITイノベーション推進部 シリコンバレー・デジタルイノベーションラボ 室長 渡邊 知史 氏

Digital Innovation・“みずほ”の取り組み

・（株）みずほフィナンシャルグループ みずほ銀行 デジタルイノベーション部 部長 阿部 展久 氏

●オープンステージプレゼンテーション概要

IoTタウン2017の出展各社より、IoTに関わる取り組みや展示内容などについてわかりやすく紹介するプレゼンテーションを実施。

会場はIoTタウン2017内に設置するオープンステージ。

●Society 5.0に関する冊子概要

Society 5.0に関する理解を深めることを目的に、今回初めて「Society 5.0」をテーマにした冊子を製作し、IoTタウン2017の展示会場内に無償配布することになりました。本誌ではSociety 5.0の全体像から、Society 5.0の実現に向けて“フロントランナー”として走り出した企業の動向、そしてSociety 5.0を推進する業界団体の取り組みなどを取り上げている。

IoTタウン2017出展企業・団体のSociety 5.0に向けた取り組み事例を多数掲載しており、Society 5.0を網羅的に理解できる1冊としてまとめている。

会期中に限定数を無償配布、品切れゴメン。

▼冊子概要

Society 5.0～Society 5.0を知れば、未来の日本にきっとワクワクできるはず。～（2017年10月3日発行/A4判48ページ）

[企画] CEATEC JAPAN 実施協議会

[発行] 一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）

【問い合わせ先】

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）

総合企画部 広報室（担当：吉田）

TEL：03-5218-1053 Mobile：080-7749-2249

E-mail：press@jeita.or.jp

◆第30回東京国際映画祭ラインナップ発表

第30回東京国際映画祭開催まで残すところあと約1カ月！本日六本木アカデミーヒルズタワーホールにて各部門の全ラインナップ・審査委員・各イベントの魅力・見所を発表する記者会見を開催された。

イベント冒頭、久松猛朗フェスティバル・ディレクターより開催の挨拶とアニバーサリーイヤーの特別企画や上映に関する発表があった。

88の国と地域、1538本もの応募の中から15作品がコンペティション部門に選ばれ日本からも『最低。』と『勝手にふるえてろ』の2作品が選出された。当日はゲストとして『最低。』から、瀬々敬久(ぜぜたかひさ)監督と主演の森口彩乃(もりぐちあやの)さん、佐々木心音(ささきここね)さん、山田愛奈(やまだあいな)さんが、『勝手にふるえてろ』から監督の大九明子(おおくあきこ)さんが登壇した。さらにアニメーション特集「映画監督 原恵一の世界」から原恵一(はらけいいち)監督が登壇した。

またコンペティション部門の審査委員長は、俳優で映画監督としても活躍するトミー・リー・ジョーンズ氏に決定し、さらに審査委員として、フランスからは映画監督のマルタン・プロヴォ氏、イランから映画監督のレザ・ミルキャリミ氏、中国から女優のヴィッキー・チャオ氏、そして日本からは俳優の永瀬正敏氏が決定しました。

第30回東京国際映画祭では10月25日(水)～11月3日(金・祝)の10日間の開催期間中、200本以上の映画が上映され、世界中から訪れる様々なゲストが多数登場し、Q&Aやトークショーなど映画祭ならではのイベントが目白押し。

コンペティション部門審査委員長：トミー・リー・ジョーンズ(俳優/監督)に決定！！

<プロフィール>

テキサス州サンサバ生まれ。父とともに油田で働いたのち、セント・マークス・スクール・オブ・テキサスに進学。その後ハーバード大学で英語を専攻し、優秀な成績で卒業した。『ある愛の詩』(70)で映画デビューし、40年以上にわたり活躍している。出演作は70本以上で、アカデミー賞®、ゴールデン・グローブ賞などの映画賞の受賞・ノミネート多数。1994年、大ヒット作『逃亡者』でアカデミー賞®、ゴールデン・グローブ賞の助演男優賞を受賞。監督、プロデューサー、主演を務めた2005年の『メルキアデス・エストラーダの3度の埋葬』は批評家に絶賛された。この作品は05年のカンヌ映画祭コンペティション部門に出品され、男優賞を受賞。15年にはオースティン映画協会のテキサス・ホール・オブ・フェイムを受賞し、ハリウッドで最も称賛されるベテラン俳優のひとりとして知られている。公開待機作“Just Getting Started”ではモーガン・フリーマン、レネ・ルッソと共演し、『タイ・カップ』の監督ロン・シェルトンと再びタッグを組んだ。最近、ロブ・ライナー監督の“Shock and Awe”、ブラッド・ピットと共演したジェームズ・グレイ監督の“Ad Astra”の撮影を終えたばかり。

【東京国際映画祭フェスティバル・ディレクター 久松猛朗】

今年から東京国際映画祭フェスティバル・ディレクターを務めます久松です。皆様のおかげで今年30回を迎えることができました。この節目の開催にあたりまして過去の29回

を振り返りつつこれからの進むべき方向性を再確認し、共有し、約束するという意味で今年は三つのキーワードを掲げました。一つ目は【Expansive】映画を観る喜びの共有として誰もが参加したくなる映画祭を目指します。二つ目は【Empowering】映画人たちの交流をこれまで以上に促進します、そして最後に【Enlightening】映画の未来の開拓として若いクリエイターの育成、未来の映画ファンの開拓を行います。今年は充実したプログラムを用意できたのではないかと考えております。映画ファンに届くよう、これまで以上にご支援ください。

【コンペティション部門選出作品『最低。』監督 瀬々敬久】

この映画は現役のAV女優の紗倉まなさんの小説を映画化したものなのですが、アダルトビデオという偏見の目で見られることもあるかと思うのですが、そういう偏見をすることもなく映画祭で選んでいただいたことを非常に感謝しています。原作はAV女優の友人関係や家族関係であるとか、それを取り巻く日常というものが緻密に描かれているんですがアダルトビデオというものが日本の社会でどういう位置付けてあるものかということも含めて、今、日本がどう変わっていくのかということの世界の人たちに、日常の断面でいいのですが、感じてもらえたら良いなと思っています。(印象に残ったエピソードは)撮影日数も少ない中、佐々木さんが撮影中にプールに落ちるシーンで脳震盪を起こして病院に行くということがありまして…映画の演出だったはずが、現実になってしまって、慌てました。

【コンペティション部門選出作品『最低。』主演 森口彩乃】

(オファーを受けた時の心境) 覚悟がとてもある作品だと思っていました。最初は引き受けさせて頂いて嬉しかったのですが、撮影に入る前くらいから、なんで引き受けちゃったんだろうと思うこともありましたが(笑)。AV女優に染まり切る前とといいますか、足を踏み込んでしまった主婦の役なので、原作の紗倉さんも書いている通り、一度足を踏み入れてしまったら…というようなところが映画にも描かれているのではないかと思います。

【コンペティション部門選出作品『最低。』主演 佐々木心音】

この作品に関わらせていただいて、この場に立てたことを嬉しく思います。ありがとうございます。元々原作を読んでいた中で私が演じた彩乃は、多分、紗倉まなさんと年齢が近いですし相当自分と似ている人物を描いているのではないかと読んでいたので、本当にこのお話をいただけたとき嬉しかったです。本当に楽しくやらせていただきました。

【コンペティション部門選出作品『最低。』主演 山田愛奈】

私はこの作品が初めて映像のお仕事をやらせていただくきっかけになった作品です。緊張していますがよろしく願います。(映画初挑戦の現場はいかがでしたか?) 映画の現場がどういうものか分からず入ったので本当にゼロから学ばせて頂いたんですが、色々勉強になったのと、こういう風に映画がつけられているということを知りました。

【コンペティション部門選出作品『勝手にふるえてろ』監督 大九明子】

本日はこのような晴れがましい席にまさかこのようなささやかな映画がお招きいただけることになるなんて、大変緊張

しております。プロデューサーに原作を紹介され、綿矢さんの作品はよく読むのですがこれは読んでいなくて。タイトルを見た時に絶対やると思いました。松岡さんは現場では集中力の高い方なので、ちょっとこの映画は内向的というか、独特の性格の女の子を演じてもらっているのですけれども、リアルなヨシカそのもの、というような大変集中している姿が印象的でした。映画を撮るたびにいつも誰かにとって大事な映画になればいいなことだけを思っていたのですが、それがまさかこのような形で世界の皆さんにご覧頂けて、そして、素晴らしい監督たちと作品を競うという場に並べさせて頂けるのは驚きでした。

【アニメーション特集「映画監督 原 恵一の世界」原恵一監督】

今日着ている Tシャツは、今作っている作品のヒントです！まだまだ多くは語れないのですが、今回の特集は、現在ちょうど新作の製作中なので、過去作がこういう大きな映画祭で見てもらえるのは、そのためにもなるし、非常に嬉しく思っています。人に見られて恥ずかしいものは一本も作ってきていないつもりで、どの作品も自分のキャリアの中でとても大事にしています。(特に思い入れのある作品としては)『映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ モーレツ！オトナ帝国の逆襲』はすごく大きいターニングポイントになった作品なので、海外のメディアやお客さんに見てもらって、どういう評価をもらえるか楽しみです。(原監督の作品は希望を描くために時にはこどもには辛いのではないかなと思うようなことも描くことについて) ぼくらの世代が子供のころ見ていた漫画やアニメや特撮ものなどは大体最後に主人公が死ぬという展開が多かった。そういうものに影響を受けて自分も作ることが多かったからか、子どもにショックを与えるものを作らないでくれという要請に対して、そういうものを見て育ったけれど良いショックを受けてきたので。(実写とアニメーション)の後、実写は完成までのスピードが早いので撮影期間が3週間くらいで、映画のほぼ完成形ができあがるというのを『はじまりのみち』で体験してしまったんです。そのあと、また絵コンテを一コマ一コマ書く仕事に戻ったときは本当にめんどくさいなと思いました(笑)

また本日の会見では登壇が叶わずでしたが、コンペティション部門選出作品『勝手にふるえてろ』主演の松岡茉優氏、クロージング作品『不都合な真実 2: 放置された地球』キャストのアル・ゴア(元アメリカ副大統領)さんより下記コメントをいただきました。

【コンペティション部門選出作品『勝手にふるえてろ』主演 松岡茉優 映像コメント】

東京国際映画祭コンペティション部門に選出して頂きました映画『勝手にふるえてろ』主演の松岡茉優です。今回、初めて映画の主演を務めさせて頂きました。この作品には、たくさんの思いがあるのですが、大九明子監督をはじめ、原作の綿矢りささんも女性であり、本当に多くの女性スタッフが集まって作った作品です。全国の“こじらせ女子”や、ちょっと背中を押してほしい女の子たちにこの作品が届けばいいなと思いながら作りました。きっと、たくさんの女の子たちの背中をツンツンと、つつける様な作品になっているはずですよ。



画面左よりコンペティション部門選出作品『最低。』監督 瀬々敬久氏。同じく主演 森口彩乃氏、同じく出演 佐々木心音氏、同じく出演 山田愛奈氏。コンペティション部門選出作品『勝手にふるえてろ』監督 大九明子氏。アニメーション特集「映画監督 原 恵一の世界」原恵一監督。

ぜひ映画『勝手にふるえてろ』をご覧ください。よろしくお願いいたします。

【クロージング作品『不都合な真実 2: 放置された地球』キャスト アル・ゴア コメント】

『不都合な真実 2: 放置された地球』が2017年の東京国際映画祭クロージング作品に選ばれたことを光栄に思います。また、最近の異常気象により被害に遭われた日本の皆様に対し心からお悔やみを申し上げます。来日し、異常気象の問題に警鐘を鳴らす機会に恵まれることを心待ちにしております。

コンペティション部門出品作品一覧

タイトル、製作国、監督名の順

- マリリンヌ/フランス・ギヨーム/ガリエンヌ
- スパーリング・パートナー/フランス/サミュエル・ジュイ
- ナポリ、輝きの陰で/イタリア/シルヴィア・ルーツィルカ・ベッリーノ
- さようなら、ニック/ドイツ/マルガレーテ・フォン・トロッタ
- グッドランド/ルクセンブルグ=ドイツ/ゴヴィンダ・ヴァン・メーレ
- 泉の少女ナーム ジョージア/ザザ・ハルヴァシ
- ペット安楽死請負人/フィンランド/テーム・ニッキ
- シップ・イン・ア・ルーム/ブルガリア/リュボミル・ムラデノフ
- グレイン/トルコ=ドイツ=フランス他/セミヒ・カプランオウル
- スヴェタ/カザフスタン/ジャンナ・イサバエヴァ
- ザ・ホーム-父が死んだ/イラン/アスガー・ユセフィネジャド
- アケラット-ロヒンギャの折り/マレーシア/エドモンド・ヨウ
- 迫り来る嵐/中国/ドン・ユエ
- 最低。/日本/瀬々敬久
- 勝手にふるえてろ/日本/大九明子

<第30回東京国際映画祭 開催概要>

■イベントタイトル: 第30回東京国際映画祭

■開催期間: 2017年10月25日(水)~11月3日(金・祝)

■会場: 六本木ヒルズ(港区)、EXシアター六本木 他

■公式サイト: <http://www.tiff-jp.net>

10月14日(土)より一般チケット発売予定!